

## 実相寺昭雄を追って…

# ★436

取材・構成  
池田憲章

[第九章] 実相寺映像を演じる俳優の思い

●「実相寺監督と出会ったのは、運命だったと思います!!」



堀内 正美 (俳優) <http://www.horiuchimasami.com/>

▲1950年3月22日、東京生まれ。桐朋学園大学短大部芸術科演劇コースに入学。演出家をめざし、蛭川幸雄氏の劇団で演出助手の修行中、TBSのTVドラマ『わが愛』に俳優としてスカウトされる。その後、TVドラマ、映画、舞台の俳優の道へ進んでいく。実相寺監督とは、『東京幻夢』、『屋根裏の散歩者』、『ウルトラマンダイナ』、『ウルトラQ dark fantasy』と数々の問題作に出演し続けた。

俳優の堀内正美さんの演技は、2004年に撮影された映画『乱歩地獄／鏡地獄』を製作していた東宝ビルトのスタジオへ一週近く通ったので、じっくりと見たことがあった。変死事件を追う警視庁の波越警部を演じる寺田農さんの部下の刑事で、林立する鏡に映り込む表情がとても印象的だった。実相寺昭雄監督とは1977年の映画『歌麿／夢と知りせば』以来のつきあい、幾多の実相寺映像の人物像を演じ続けた。今回の

取材では、なかなか知られていない監督の一面を話していただいた。堀内正美さんは、1950(昭和25)年3月22日、映画人の堀内甲監督の長男として、東京の成城に生まれた。生家が東宝撮影所から五分程の距離で、父が東宝の黒澤明監督の助監督で『素晴らしき日曜日』、『わが青春に悔いなし』についていたこともあって、堀内正美さんは少年時代、東宝撮影所を遊び場にして、特撮プールに浮かぶ軍艦のミニチュアや表はきれいな

建物なのに裏に回ると木材まるだしのセットの不思議さ、女優さんにかわいがられたり、映画の世界の不思議さを実感していたという。父親が東宝争議に参加して、会社を辞め、新藤兼人監督や吉村公三郎監督とフリーの助監督としてつき、やがて父親は児童劇映画の監督として活躍を始めていった。作品に没入する監督で、作品が始まると編集も自分で手がけ、3、4ヶ月も家に戻らないのは当たり前、「なぜ、自分の父親が他の家のように家にいなくて、一緒に遊んだり、旅行へ行かないのか、悲しかった」と堀内さんは語る。

そんな父への反発もあって、学生運動にも参加、高校から浪人時代、学生たちのバリケードを渡り歩いた。「学生たちでトラックを運転して深夜に駒沢公園へ行つて、砂利を荷台に積み込み、東大の安田講堂へ乗りつけ、コンクリートとまぜてバリケードを強化する手伝いもやりました」と堀内さん。安田講堂の戦いに敗れ、成田の三里塚闘争でビニールテントに寝泊りして活動したが、生き方に悩んで東京へと戻ってくる。

新宿で見た清水邦夫・作、蛭川幸雄演出の芝居「心情あふるる軽薄さ」にシヨックを受ける。新宿を中心にした新たな演劇は、アンダーグラウンド(アンダグラ)演劇で新鋭の気運がもりあがっていた。唐十郎の「赤テント」、寺山修司の「天井桟敷」、佐藤信の「黒テント」と、従来の演劇にとらわれない表現と主張は、多くの若者を引きつけていたのだ。才能と熱気があふれる演劇運動に堀内さんは強く魅きつけられていった。

演劇の道(みち)を志し、桐朋学園大学短期大学部芸術科演劇コースを希望して入学。演出家の千田是也氏、田中千末氏、劇作家の安部公房氏が先生だった。その後、あこがれていた劇作家の清水邦夫氏、演出家の蛭川幸雄氏の劇団に入つて、演出助手として蛭川氏の下で次の時代の演出家を夢見て、何でも吸収してやろうと演劇の勉強と修行を続けていた。

俳優時代の蛭川氏を知るTBSの山田和也プロデューサーが舞台稽古で働く堀内さんを見て、「俳優にならないか?」と語りかけた。TVの新番組で主人公の加藤剛氏の弟役を探していた山田プロデューサーは彼ならと思ったのだ。ある運命が大きく回り始めた!